

令和 8 年度 (2026 年度)
東北大学大学院環境科学研究科
博士課程前期 2 年の課程 入試問題

(令和 8 年 4 月入学)
〔一般選抜〕

専門科目
環境・地理群
(環境地理学)

令和 7 年 8 月 26 日 13 : 00 ~ 14 : 30 実施

注 意 事 項

1. 机の上には受験票, 筆記用具, 時計以外は置いてはいけません。
(電卓が必要な場合は申し出ること.)
2. 合図があるまで問題冊子を開いてはいけません。
3. 試験時間は 13 : 00 から 14 : 30 までです。
4. 問題冊子(1 部), 解答用紙(3 枚), 草案用紙(1 枚)を配布します。
5. 問題は 1. から 2. まで計 2 問が出題されていますが, すべてを解答します。
6. 解答はすべて解答用紙に記入して下さい。
解答用紙の所定の欄に問題番号および受験記号番号を明記して下さい。氏名は記入しないこと。また問題によって解答用紙を別にして下さい。
7. 問題冊子は持ち帰らないで下さい。

1. 居住者特性の地域差を調べる人文地理学研究を想定し、次の問いに答えよ。

- (1) 日本では国勢調査による統計データにより、市区町村より地理的に詳細な居住者特性の地域差を調べることができる。そのような地理的に詳細な統計単位について、2種類の例をあげて解説せよ。
- (2) 地理情報システム (GIS) を利用して、通勤・通学手段として自家用車を利用している人の割合の分布図 (主題図) を作成したいとする。この割合の階級区分としてどのような方法が考えられるのか、複数の方法をあげて、それぞれの長所・短所を解説せよ。
- (3) ある都市圏内部で都心から遠いほど自家用車による通勤・通学者割合が高いという仮説をたてたとする。回帰分析によってこの仮説を検証する方法を解説せよ。回帰分析の説明に数学的な記号を用いる場合は、使用する記号について定義すること。
- (4) ある時期に特定の地区で実施された再開発が、当該地区や周辺のジェントリフィケーションを引き起こした場合、国勢調査によって把握できる居住者特性には主にどのような変化が生じると想定されるか、またそれを検証する分析方法を解説せよ。

2. 以下の語群の語句を5つ以上、適宜用いながら、高齢化・人口減少に関連した都市地理学研究について、研究の論点と課題を述べよ。

- a. 都市の縮退
- b. スポンジ化
- c. 空き家問題
- d. 孤立・孤独
- e. 場所感覚
- f. 公営住宅
- g. 郊外住宅地
- h. 丘陵地開発
- i. フードデザート問題
- j. モビリティの格差
- k. 立地適正化計画